

会 議 録

1 会議名

令和5年度第6回八千浦区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

- ・自主的審議事項について（公開）
- ・地域協議会活動報告会について（公開）

3 開催日時

令和6年2月7日（水）午後6時30分から午後7時30分

4 開催場所

八千浦交流館はまぐみ 多目的室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 仲田紀夫（会長）、伊倉幹夫、笠原 武、笠原幸博、坂詰喜範、
関川信之、羽深栄一、平野和夫、柳澤 篤、渡辺孝三郎、渡邊修一
（欠席者1名）

- ・事務局： 北部まちづくりセンター：佐藤所長、近藤副所長、小川係長、丸山主任

8 発言の内容

【近藤副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【仲田会長】

- ・挨拶
 - ・会議録の確認：関川委員、平野委員に依頼
- 議題【協議事項】自主的審議事項について、事務局へ説明を求める。

【丸山主任】

1月10日に正副会長と事務局で自主的審議事項の取扱いについて事前打合せをさせていただいた。本日は、取扱い（案）を皆様にお示しさせていただいたので、こちらをたたき台として、自主的審議事項の取扱いを委員間でご協議いただきたい。

・資料No.1「八千浦区地域協議会における自主的審議事項について」に基づき説明

【仲田会長】

自主的審議事項は、本来なら我々が課題として挙げたことについて協議をすればいいが、重い課題や議論途中のところもある。それらを踏まえて、今ほどの事務局の説明について、意見、質問はあるか。

【平野委員】

今後の自主的審議事項の取扱いで、保倉川放水路と八千浦のまちづくりについて、いろいろと考えていかなければいけないと思うが、考えるにあたって絵のようなものがあればいいが今は全くイメージが頭の中に入らない。ただあそこに川が一本流れるだけで、河川敷があるのかないのかも全然わからない。今現在あるのかわからないが、全体的な漫画でもいいので絵のようなものがあれば、ある程度八千浦区のまちづくりとしてどうしたらいいのか、少しは前進した形で出てくるのではないか。もし、そういうものがあれば、皆さんに配布していただきたい。

【丸山主任】

保倉川放水路の整備については国が整備するというので、昨年12月に説明会なども行われ、年明けにも保倉川の沿川と関川の沿川のそれぞれのところで住民説明会が行われた。その中で示されている保倉川放水路の整備計画については、ここにこれくらいの幅の川を通すということが図面で簡単に示されただけで、管理施設として河川敷にあたる部分と管理用の道路がどこに、具体的にどのような形で入るかというところまでは当時の資料では示されていなかった。今後各種調査を行っていく中で、そういったものも具体化していくのではないかと考えている。市では保倉川放水路を整備することに合わせて、分断される道路などの各種インフラ関係をどのようにつないでいくか、担当課が夷浜町内を中心に入りながら検討協議を進めていて、まだ具体的なものは出てきていない。また来期以降についても、情報が入り次第改めて資料を取り寄せて、皆様に配布しながら協議を進めていきたいと考えている。

【仲田会長】

今平野委員が言われたように、国の事業なので国がどのような方向を考えているかというのも議論の対象になるが、視点を変えて、今方針が発表されて分断されるのは何かというと、大きく言えば道路、鉄橋である。その道路の中にも、国道、県道、市道があり、まず身近なことで、例えばこの道路が分断されたらどうなるのか。分断されないようにするために橋はどうするのかといった視点や、こういう観点から議論を進めていってはどうかなど、ご意見があれば出していただきたい。

伊倉委員、何かあるか。

【伊倉委員】

まだ先が長いので、今からそこまで考えられない。

【渡邊修一委員】

まだ町内会からも全然手つかずの状態である。私どもの希望としては、県道、国道は当然橋を作ってもらいたいと思っているが、今、周回道路をやってもらってあるのが途切れると不便になるのではないかと個人的には考えている。相手は国なので、橋をたくさんかけてもらえば助かるが、そうもいかないと思うし、うまく話を持っていけたらいいと考えている。

【仲田会長】

今回の能登半島地震で、津波が川を遡上した。私が聞いた範囲だが、保倉川放水路が切れたらどうなるのかという話も出ている。防災の観点とまちづくりの観点から見たときに、切らないほうがいいのではないかという意見と、災害という観点からすれば必要だということになってくる。そのへんについて別の視点があれば、今後の進め方の参考になればと思うがどうか。

先ほど事務局から説明があったが、1月10日に私と副会長と事務局で今後の進め方について協議したものがここに載っている。どのように協議したかということ、今までの自主的審議事項の共通点、それからとても重い課題であった若者の町内流出を防ぐ取組に共通点が見出せないかということがあった。そうすると、どうしても共通点とまちづくりにいってしまうので、まちづくりということであれば、海岸線も含めて保倉川放水路の法線が決まったので、保倉川放水路が切れるときに八千浦地区の住民はどうなっていくのか、或いは若者はそのときにどういう生活を望んでいるのか、どういうまちがいいのかという観点から、やはりメインとしては、保倉川放水路を中心としたまちづくりに関連すれば、海岸や若者の流出との因果関係も出てくるだろうということで、事務局

から4項目についてまとめていただいた。

皆様方は該当する地域、遠巻きにする地域に住んでいらっしゃるわけなので、火力発電所のまちづくりのときに約1年か半年ぐらいかけて冊子になっている。この建物、八千浦交流館はまぐみが、実は火力発電所のまちづくりの中で出てきた課題のうちの一つである。隣にある、スポーツセンター、体育館、すぐ隣にある防風林を散策路にするという案があった。そのとき海水プールという案も出たが、最終的にまとめきれなかったこともあり、温浴施設がそれに代わったという経過がある。それからもう一つはこのまちづくりの観点からいうと隣の工場跡地の処理をどうするかが関連して出てきている。それが今の段階では、広大な土地が生まれてきている、その有効活用も地域としてどうするかということも議論をされてきた経過がある。そういった観点で保倉川の放水路の周辺ということよりも、それに付随して我々の生活がどう変わっていくか、或いはその開発に向けて、例えば国道、県道、市道の取付けによって住環境が変わっていく。そのときにこういう観点から、まちづくりを考えていったらどうかということもあると思うので、そういった意味では先ほどの今後の自主的審議事項の取扱いの4項目にこだわることはないが、まとめ切るとこの4項目ぐらいしか見つからないということになってしまう。皆さん方の現在の立場での意見があれば、これを引き継いでいくかはあとで皆さんの意見を伺うが、自由に意見交換をしていただきたい。

【関川委員】

会長がおっしゃったとおり、国がどうかというよりも、保倉川放水路ができた場合に、自分たちのほうからこういうふうなまちづくりをしたいと意見を出すのがこの場だと思う。なので、皆さんの意見を聞く機会を持ったり、私たちだけで話をしてもなかなか進まないことだと思うので、自分たちのほうからどういうまちづくりをしたいかということ、イメージしていくのが大事だと思う。

【仲田会長】

火力発電所のまちづくりの検討は、当時火力発電所建設対策協議会というものがあつた。そこがまとめているのではなく、そこが中心なのだが、そこに有識者やいろいろな年代層の人が集まって大きな協議会を作って、その協議会がたぶん2年近くかかったと思うが、取りまとめて、冊子になって、それが実はまだ計画としては生きているということなので、そういった観点からすれば、我々が「こうしたほうがいいんじゃないか、ああしたほうがいいんじゃないか」ということになると思う。前に一度、火力発電所の

送電線の関係で移転した遊光寺浜町内会から、川が切れていたら今住んでいるところはどうなるのかという心配が出ていた。夷浜町内会が分断されないということでいろいろな意見が出て、法線が今のところに落ち着いたとえば落ち着いたのだろうが、隣の遊光寺浜はそれに加わったかという、加わっていない。法線が決まってから、これはどうするのか、あれはどうするのかでは、意見がとおるかとおらないかということにもなるので、今の段階での引継事項や課題について、出していただきたいと思う。

【羽深委員】

先ほど会長と関川委員から話が出たとおりだと私も思う。ただ、計画の概要を見ると、やっと法線が概ね決まったが変更もありうるという書き方もしてあり、完成が概ね30年後という表記になっている。完成するのは、概ね30年後ということで理解すると、計画では川幅が110mから120m程度ということでかなり大規模な事業で、我々この地域に住んでいるものとしては、例えば道路一つとっても幹線道路、生活道路、たくさんある中で川ができることによって分断される。当然、橋をかけてもらわなければ、現在の生活どおりにいかないということがある。ただ30年後にできるものを、今から「こういう橋をかけてくれ、ここに橋をかけてくれ、ここにはこういう道路を作ってくれ」と言うのは、なかなか見えていない中では難しいと思う。何年後になるかわからないが、このように決まったということになると、すでにそのときには予算がついている頃で、決まったのならばその中でこのようにしてくれということでは遅いと思う。今から具体的にどうこうというよりも、地域としてこういったものを、最低限こうしてくれと、具体的な内容については順次詰めていけばいいと思うが、少なくともこうしてくれということは、やはり提案をしていかなければいけないと思うし、それがこの地域協議会の役割でもあるだろうし、そういったことを一定程度詰めていくということがいいのではないか。

【仲田会長】

まさにそのとおりで、地域協議会の役割として、地域の皆さんに問題提起することも一つだし、地域の意見をくみ上げてまとめることも一つ、両方あるわけなので、羽深委員が言われたように問題提起をするということと、それを取りまとめていく。そのためには、こういう課題、こういうテーマで、こういう手法で保倉川放水路に関連するまちづくりを考えてってはどうかという、そのような意見があったらぜひ出していただきたい。

【関川委員】

意見集約ということになると、先ほど30年先という話だったが、実際着工は始まっていく。そうすると30年後の未来に生きている人たち、生活しているであろう若い人たち、20代、30代の人たちの意見集約をする場を設けるのも一つの手ではないかと思う。

【仲田会長】

こういう課題がある、こういうテーマがある、次代を担うのはあなた方だからという問題提起のやり方もある。ならば、こういうやり方もどうかということがあれば、ぜひ出していただきたい。

さきほど羽深委員が言われたように、工期が概ね30年ぐらいだと国が言ってるが、国の予算の使い方もあるが、ただ地元として国が出すまで待っている手はないと思う。例えば、川の出口と海の接点をどうするかなどは、すごく大きなテーマになる。親水という面、海をテーマにして海と親しむという、そういったものを取り上げていくことになると、ではその近くにある橋はどうするのか等考えられる。或いは防災の観点から、今回の地震を見て、津波が遡上しないために沖合にもう少し堤防を作ってほしいといったことも考えられる。かといって福島のように7mも10mもの堤防を海岸沿いに作ることはまちづくりの観点から賛成できるのか、そういった視点も出てくる。こういう観点ではどうかと投げかける意味で、ぜひ意見を出していただきたい。今日は一言ずつ意見をお願いしたい。

【関川委員】

私はコロナ禍になってから、海外へ行かずに日本全国を訪ねている。新湊大橋を皆さんご存じか。とても立派な橋である。人を集めるためにあれくらい立派な、大きな橋を建てる。そうすれば津波のときにその橋に逃げられるということもあるので、観光の目玉のように大きなものを作っていただく。生活道路ではなく、観光のためにというのもいいのではないか。

【仲田会長】

以前いろいろな意見が出て、火力発電所の夜景の話も出た。それを今の関川委員の意見をセットにすれば、作らせるという案ができる。こういう橋をつくれとか、橋のルートをこういうふうにもう少し曲げてこうしたらどうかなど、いろいろな発想が出てくると思う。あと1、2回しか協議会はないので、せっかく4年間やってきてこれだけは言

っておきたいということがあれば発言してほしい。

【柳澤委員】

今新湊大橋の話が出たが、今年度の町内会長の視察で、北地区の皆さんと25人ぐらいで行った。長野でバスを停めて買い物をすると大体20万ぐらい売れるようである。こういうものを直江津にどうしてもできないのだろうと言っていた。八千浦地区に道の駅の一つでもできてくれたら非常にいいと思うので、ぜひ継続審議にしていければと思う。

【笠原武委員】

保倉川放水路の同類のものが、新潟県内にも大きなものが一つある。寺泊の分水路は今の新潟市のほうのいかに水を抜くかという形で作られた。一種の放水路である。今流量の関係で、さらに河口を広げている。そういう参考にするものを資料として求めていけば、地域づくりに関してはいいのではないかと思う。

【仲田会長】

他にどうか。

【笠原幸博委員】

今回のこの保倉川放水路整備については、少し残念だと感じている。なぜかという、八千浦が分断されるのではないかと私は考えている。国がやることだからなんとも言えないが、西ヶ窪浜、夷浜が遠くなってしまうと感じている。

それはそれとして、八千浦にもう一度、八千浦独自の第一次産業を復活させないかと思っている。海があるので水産、昔の水産ではなくこれからの水産業、それから農業。自給自足というか、日本の自給率は低いわけだが、とにかく農業、水産。そのエネルギー資源は何かという、中部電力または東北電力の排水、要するに熱を利用して、そういう生き物を育てて、八千浦独自のものができるとは思わないか。昨日、柏崎でバナナを育てているというニュースがあった。あのようになんか八千浦にもバナナやパイナップルでもいい、南国のものでもいいと思うが、海沿いに作っていく第一次産業を起こせばどうかと考えている。

【伊倉委員】

津波に関しては、八千浦よりも土地の低い頸城の人たちのほうが、より心配していると思う。こちらで検討するときには、頸城の人の意見も参考にしてもらいたい。

【渡邊修一委員】

津波の遡上などマイナス面も絶対出てくるかと思う。夏頃から、キャンプ場や火力発

電所の夜景を見たいとか、夢みたいな話も出てきているのを思い出した。できれば、なかなか難しいかと思が、それを加味できるように、ただ橋を造るのではなくそれに付随して、一つの案だが、キャンプ場など皆さんの心が豊かになるような、楽しくなるような施設もできてほしいと思う。

【仲田会長】

だいぶ意見が出てきた。一つは、地域を分断させないということで、地元が進めてきた。発表されたルートで放水路ができれば分断されてしまう。どうしても分断される。分断させないの何かということが一つテーマである。それは先ほどから出ているように、例えば橋。それから農業や漁業の復興。新しく作るのではなく、新しい視点で農業、漁業を考えていくという意味で復興。それから今出たような、その沿川住民との協働、或いは議論という、当然共通する視点なので、そういった観点で、観光、人を寄せるといったものがまちづくりの核にもなるということ、自主的審議事項の四つにまとめられた中に盛り込んでいく。そのような観点で、こういう手法はどうかというものがあれば意見を出してほしい。

そろそろまとめに移りたい。事務局から今後の自主的審議事項の取扱い（案）ということで4つの考え方がまとめられている。それにプラスして、今いろいろな意見が出された。その一つの、今後の自主的審議事項の中の、テーマや課題として幾つか意見が出された。特に出されているのは、地域。地域というキーワードから地域を分断させない、或いは沿川住民と一緒に議論していく。それから第一次産業、農業、漁業の時代に合った復興。それから、人を寄せるという視点から、観光ルート、観光施設、或いはソフト事業も含めて、そういうものが今後の自主的審議事項のまちづくりの中の課題として出されたのではないかと思っている。そういった課題を継続して議論していくことを、次期協議会に求める、或いは引き継ぐためにこれも入れたほうが良いという意見があれば出していただきたい。

【笠原武委員】

ある程度年代層を幅広く協議する場を、我々が作っていないと難しいと思う。我々の年代がある程度提案して、そういう人たちを集めるということが第一条件だと思う。その上で何を、地域をどのようにしたいかという、若い人たちの意見を求めていかないと、方向性が出てこないと思う。

【仲田会長】

今、笠原武委員から出されたのは、先ほど私が少しまとめたようなテーマを幅広い層に呼びかけて一つの協議会というものを作り、まちづくりの議論をしていただく。その役割、中核的な投げかけ、まとめ、きっかけは地域協議会が行っていく。地域協議会がまとめるとなると市の補助機関なので、それよりも地域に投げかけて、地域から出た意見を地域協議会がまとめて提言をしていくというのが自主的審議事項に最も合っているやり方なので、そういった観点から、事務局がまとめた考え方、今まで議論してきた4点にうまくまとめていただいたので、これと今日出されたいくつかの意見、先ほど私が言った意見、それから笠原武委員が最後にまとめていった意見で、地域協議会に引き継いでいくということによいか。(はいの声)

よろしければそういうことで、地域協議会に引き継ぐバックボーンとしては、事務局が出されたこの4項目を中心に、今日出された意見を一つの核として幅広い年代層に投げかけて、協議会を組織して議論を進めていくというようにまとめていきたいと思うがよいか。(はいの声)。

次に、地域協議会活動報告会について事務局へ説明を求める。

【丸山主任】

- ・資料No.2「八千浦区地域協議会の活動報告会について」、資料「八千浦区地域協議会第4期活動報告会(案)」に基づき説明

【仲田会長】

今ほどの説明に対し意見、質問はあるか。先ほど自主的審議事項については整理させていただいたが、それ以外に今期の活動を振り返り、来期へ申し送りたいといった項目があれば出していただきたい。

【平野委員】

八千浦中学校体育館の屋根の修繕、雨漏りは、その後市の対応がどのようになっているのか情報があればいただきたい。

【丸山主任】

5年度の4月、第1回の協議会の際に屋根の修繕に係る設計の予算がついて、それを5年度に発注、執行しているところかと思う。また設計の後、実際の工事に入っていくと思うが、予算のつき状況などについては現時点で把握していないので、改めて確認の上皆様に報告する。

【仲田会長】

具体的に設計の予算がついているので、完全に申し送り事項で、我々としてはチェックしていくということでしょうか。

他に意見はあるか。

【羽深委員】

この活動報告の資料の内容については十分だと思っているが、どれぐらいの方が集まっていたのか、それからどういった年齢層の方が来ていただけなのか少し心配である。これは、前回もやっているのか。そのあたりについて教えていただきたい。

【丸山主任】

4年前、第三期の皆様活動報告会を企画はしたが、当時は、新型コロナウイルスの感染が危ぶまれていた時期であり、八千浦区の活動報告会は中止とさせていただいた。さらに前のものについては手元に情報はない。今回については、各町内会長にご案内をさせていただいた。今ほどの自主的審議事項、皆様からご協議いただいた中でも、若い世代の方々から是非というたくさんのご意見をいただいた。事務局としては、若い世代の方からも地域協議会でどのようなことをしているのかを知っていただき、是非委員として手を挙げていただきたいと考えている。皆様のお知り合いの方や、そのお子さんなど、たくさんの方から来ていただけるように皆様からもお声がけをいただきたい。

【仲田会長】

コロナで中止になったその前は、地域活動支援事業をピックアップして、2団体から、こういう効果があった、こういう活動をしたという実績発表を受けていたと思う。今年の場合は地域独自の予算ということで様子が変わっているので、そのへんについて地域の方がどう考えているのか。事務局のほうでは地域活動支援事業を受けた団体について、地域独自の予算になった結果どうなのかということも報告を受けるような配慮をしていただくと、今羽深委員の言われた、少し地域の様子がわかるのではないかなと思う。出席者については声掛けをお願いしたい。

他に意見を求めるがなし。

では、今ほど説明のあった報告、資料に基づいて当日報告会をやりたいと思うし、あわせて参加者について事務局のほうでご配慮いただきたい。

次に、その他、事務局からあるか。

【丸山主任】

- ・活動報告会：2月21日（水）

当日は、委員の皆様のお席をお願いしたい。都合が悪く欠席する場合は、前日までに事務局まで連絡をいただきたい。また本日配布させていただいたご案内にも入れさせていただいたが、当日の活動報告では、委員の皆様からこの4年間取り組んだ所感等を一言いただきたい。活動報告会終了後に地域独自の予算事業の令和6年度3月議会に、最終的にどのような形で地域独自の予算事業が提案しているのか、情報提供を予定している。もう一点、今期の八千浦区地域協議会の活動は、21日の活動報告会をもって終了したいと考えている。本日、地域協議会委員の公募について告示をさせていただいた。そして3月9日からの応募という形で、新しい委員に応募をしていただけるような取組が始まる。新しい委員にどのような方からなってもらえるかということも、これから地域の中でもいろいろご議論などもあるかと思うが、そういった中で現在の協議を続けていると、いつまでも次の委員の皆様を引き継ぐことが固まらないというところもあるので、活動としては一旦ここまでとさせていただきたい。ただし、任期中に関係課から、どうしても3月、4月の間に説明に来させてほしいといったことがあれば、その際は招集する場合がありますのでご承知おきいただきたい。

【仲田会長】

2月21日の報告会は、協議会メンバーが揃う最後になりそうなので、ぜひ都合をつけて出席いただきたい。当日、どうしても参加者に言いたいことがあれば、一言用意していただき、発言をお願いしたい。

【平野委員】

21日の活動報告会の案内には資料を配布すると書いてあったが、今日の（案）となっている資料は持って来なくていいのか。新しい資料が貰えるのか。

【丸山主任】

当日は、報告会の次第、活動報告と公募の概要を3点セットで皆様に配布するので、手ぶらでよい。

【仲田会長】

最後に事務局からお願いがあったように、来年度の委員の公募が始まる。市議会議員の立候補受けも始まるので、皆さん方については議論が中途半端になっているので、是非来年も立候補いただけるよう、私からもお願いをする。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。